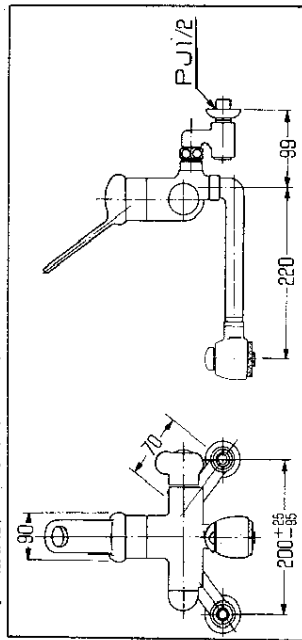


f SERIES サーモスタット混合栓取付説明書

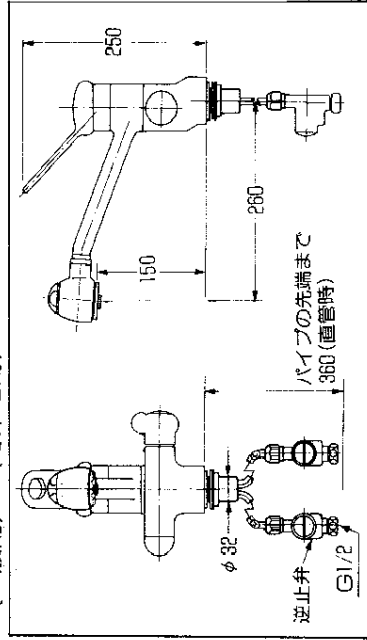
製品の機能が十分発揮されるように、この取付説明書の内容にそって正しく取付けてください。

完成図

TK290R (一般用) TK290RZ (寒冷地用)



TK291R (一般用) TK291RZ (寒冷地用)



※品番によっては、図と現品の形状が一部異なることがあります。

使用条件

1. 使用水压

(1) 瞬間型給湯機と組合わせる場合

給水圧力 { 最低必要水压……(下表参照)

最高水压………6.0kgf/cm²

器具入口部における最低必要水压(kgf/cm²)

給湯機の種類	号数	最低必要水压
従来タイプ	12号	A+3.9
TOTO カスタム制御	10号	1.4
	16号	
	20号	1.2
TOTO トリコン制御 (トリコン、コンタクト、アクティ)	16号	1.3
	20号	
	24号	1.1
比例 制御タイプ (アクティ-3)	32号	1.0
	16号	1.0
TOTOコマンド	16号	1.0
	24号	

注) TOTOカスタムシリーズでは、給湯機の温度を60°Cにした場合、表中の数値より0.2kgf/cm²多く必要になります。

表中のAは給湯機の最低作動水压を示します。

(比例制御タイプにはこの数値が含まれています。)

(設定条件)

- レバーハンドルは全開
- 吐水は整流吐水
- 給湯機温度調節は最高温度に設定
- 吐水温度：42°C
- 給湯配管長さ：5m

a) 従来タイプの場合

- 給湯機が着火する下限の圧力とする。
- 水温の高い(25°C)夏期に着火させることを想定。

b) 比例制御タイプの場合

- 水温の低い(5°C)冬期に約8L/minの吐水流量を確保するのに必要な圧力とする。

(2) 貯湯式温水器と組合わせる場合

給水・給湯圧力 { 最低必要圧力………0.5kgf/cm²
最高圧力………6.0kgf/cm²

給水圧力は給湯圧力より必ず高くするか、同圧になるようにしてください。

給水圧力が6.0kgf/cm²を越える場合、市販の減圧弁で2.0kgf/cm²程度に減圧してください。

2. 給湯温度は使用する温度より10°C以上高くしてください。

ただし、約70°C以上の温水は出ないようになっています。

3. 給湯に蒸気を使用しないでください。

4. 湯・水を逆配管しないでください。

なお、給湯機からの給湯管は抵抗を少なくするため最短距離で配管

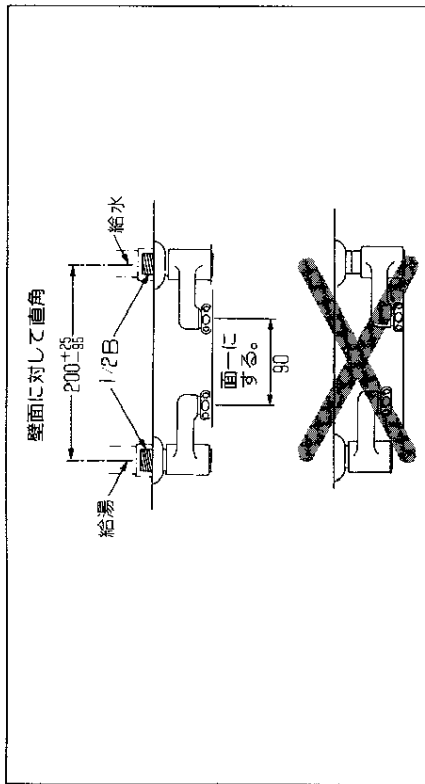
し、配管には必ず保温材を巻いてください。

器具の取付け

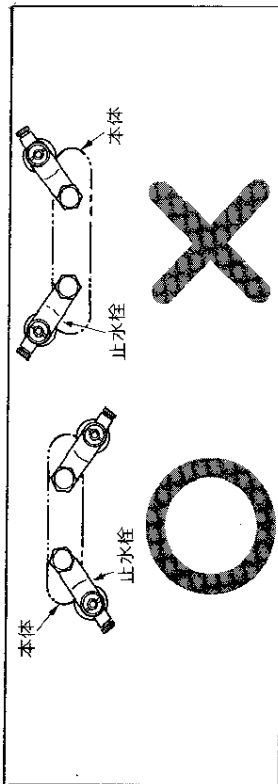
1. 給水管内の清掃

器具を取付ける前に必ず給水管内のごみ、砂などを完全に洗い流してください。

2. 止水栓の取付け (TK290R、TK290RZの場合)

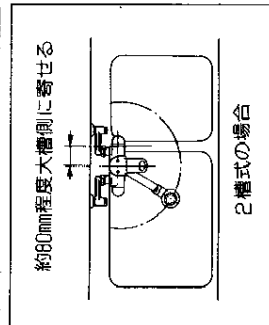


※寒冷地用TK290RZの場合は止水栓の取付位置が本体よりも上になると、水抜きができませんので必ず下になるように取付けてください。



※取付位置

- 混合栓は流しが一槽式の場合は槽の中央に取付けてください。
- 2槽式の場合は右図のように2槽の中央より約80mm大槽側に寄せるとより使いやすくなります。



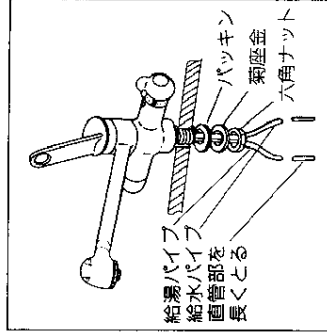
3. 混合栓本体の取付け

A. TK290R、TK290RZの場合

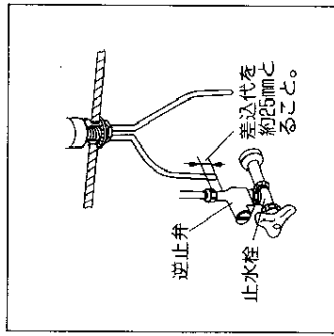
混合栓本体を止水栓に押しつけ、袋ナットで取付けてください。

B. TK291R、TK291RZの場合

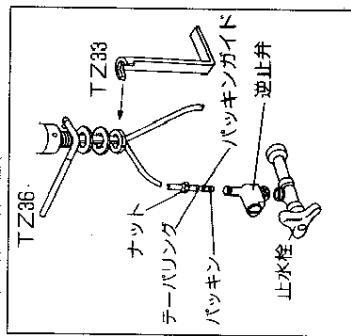
(1)混合栓本体が正面を向くように仮固定し、給水・給湯パイプを止水栓の取出し位置に合うように曲げて広げてください。このとき、できるだけだけ直管部が長くなるようにしてください。また、給水・給湯パイプがつぶれないように注意してください。



(2)逆止弁を止水栓に仮固定した後、給水・給湯パイプの必要長さをあたり切断してください。このとき、パイプの差込代は約25mm確保してください。



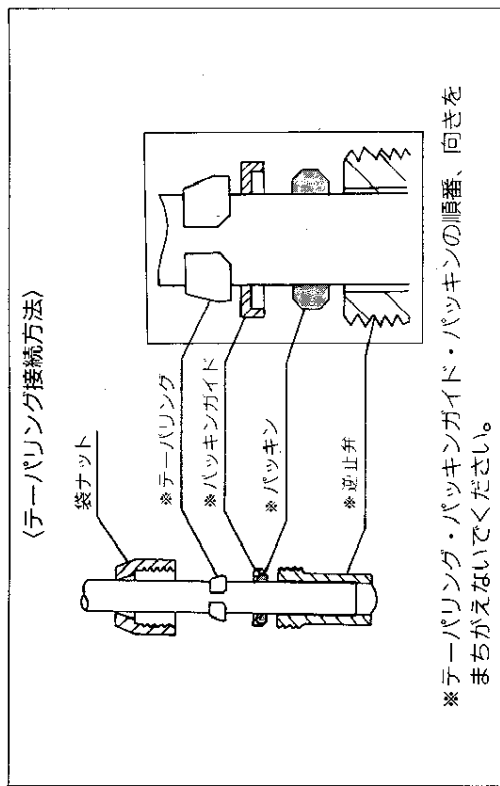
(3)給水・給湯パイプに袋ナット、テーパーリング、パッキンガイド、パッキンの順に入れて、逆止弁を差込んでください。次に逆止弁を止水栓にねじ込み、混合栓本体を本固定してください。固定には別売のナット締付専用工具 (TZ38、TZ36) を利用して確実に締めてください。



※混合栓本体を固定するときは、取付穴周囲の汚れをとり、セパレート紙をはがしてください。

(4)最後に給水・給湯パイプを逆止弁を押しつけ、手締後1回転以上締付けてください。

注)給水・給湯パイプの抜け防止のため、給水・給湯配管は動かさないよう確実に固定してください。



温度調節

工場で温度調節をしていますが取付現場の圧力状況などによって、ダイヤルどおりの吐水温度にならない場合があります。

その場合は次の要領で調節してください。

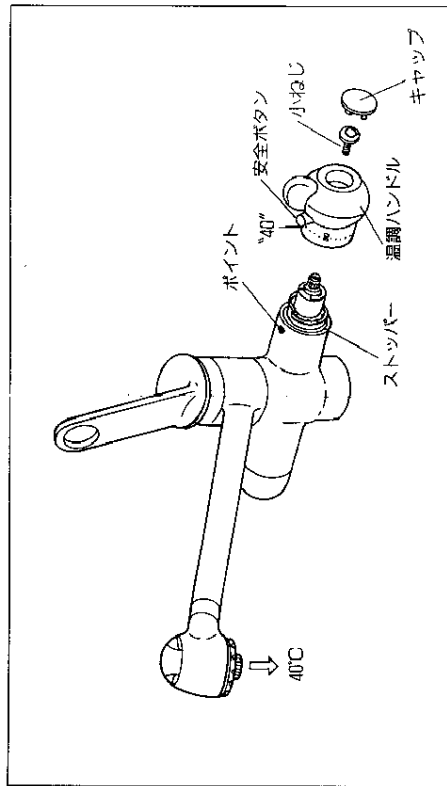
- (a)止水栓は全開になっていること。
- (b)ストレーナーのごみづまりはないこと。
- (c)十分な温度（使用する温度より10℃以上）の湯がきていること。

●調節要領

- (1)スパウトより吐水させて温度調節ハンドルのダイヤル目盛に関係なく40℃の湯が出る位置まで温度調節ハンドルを回す。（高温側へ回すときは安全ボタンを押ししてください。）

(2)その位置で温度調節ハンドルが回らないように注意してハンドルを抜きとってください。
なお、ストッパーが外れたときは分解と点検の項に示す位置に正しくはめてください。

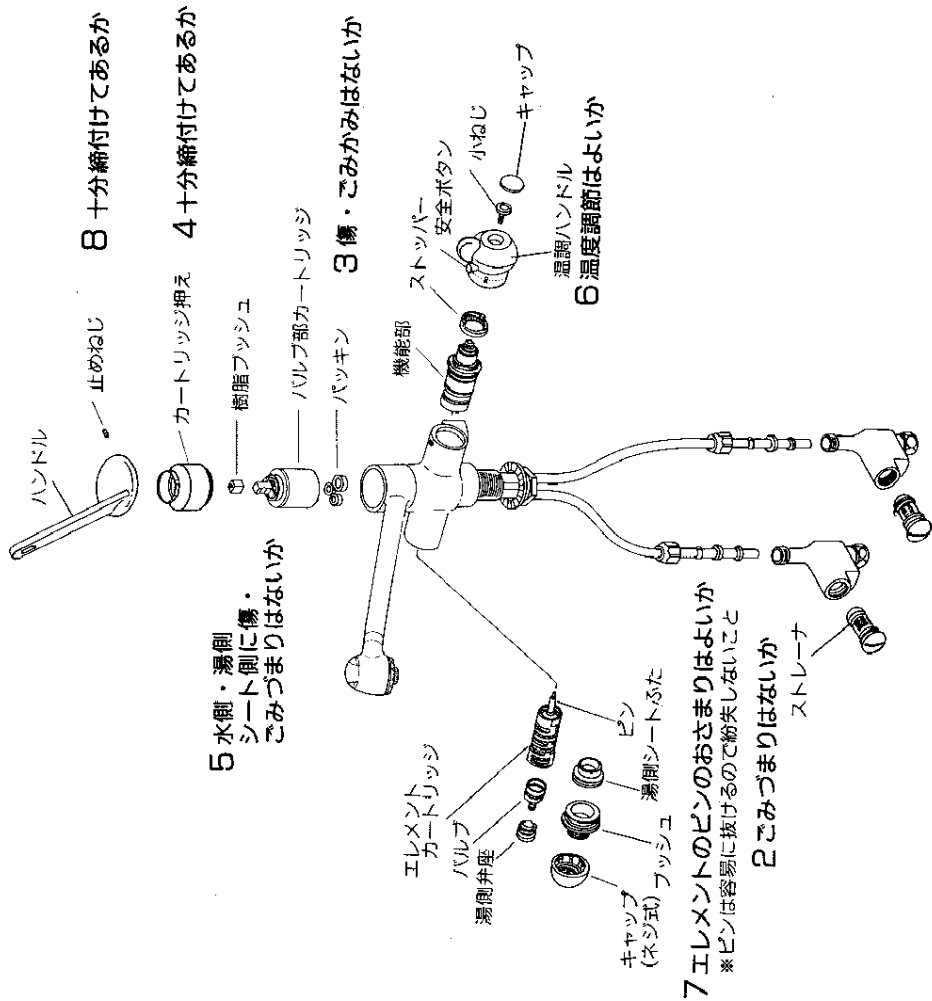
(3)温度調節ハンドルの“40”の文字をポイントに合わせてハンドルをはめ、小ねじで固定し、キャップをはめてください。



お手入れ

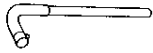
器具がいつまでも美しさを保つように、お客様にお手入れ方法をご指導ください。

- 1.ふだんは柔らかな布でふき、ときどきシン油やカーフックスなどをしみこませた布でふくこと。ただし、樹脂部に付着すると光沢を失うので付着しないよう十分注意すること。
- 2.クレンザーやみみがき粉など粗い粒子を含んだ洗剤やナイロンたわしなどは使用しないこと。
- 3.酸性洗剤はめっきを侵しますので使用しないこと。もしタイルを酸性洗剤で洗った場合は、すぐにタイル及び器具を十分水洗いすること。

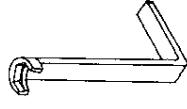


別売

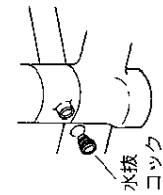
保持工具(T-Z36)



締付専用工具(T-Z38)



寒冷地用



水抜コック